

市議会議員定数20人から18人に

賛成15人、反対3人で可決

議員14人から「行政改革及び社会情勢の変化に伴い、愛西市議会議員の定数を改正する必要がある」として提案されました。

定数18は、次の一般選挙から適用されます。

発議第6号 愛西市議会議員定数を定める条例の一部改正について

◆ 賛成討論 ◆

賛成1

議員定数削減を求める国民世論の高まりが、最近特に目立ってきた。

地方議会も行政改革の痛みを分かち合い、定数削減となっても住民に理解されるような働きをすればよい。

賛成2

議会改革とは、議員及び議会の質を高め、住民の立場で十二分な論議をつくり、住民への情報発信に努め、理解を得ながら行政と対峙していく議会へと進化することである。

真に必要なのは議員の個の質を高めることであり、議員定数を削減し、選挙という議会への入口のハードルを高くすることが有効に働くと思う。

賛成3

現在全国で叫ばれているのが、地方議員の「議員力アップ」である。議員定数削減は議会の力を弱めるものでなく、むしろ議員一人ひとりの役目を明確にし、目標をもって議員活動に臨める体制を作るものと考ええる。

「市と市民との協働のまちづくり」が迫っている。市民の一方の代表である市議会議員として、衿を正し、選挙における市民の付託の重みを増すことが必要と考える。

◆ 反対討論 ◆

反対1

議員はできるだけ多くいることが望ましい。その理由は活動地域や領域、専門性などの点で様々な市民の声を議会・市政に届けることができるからだ。

「議員が多いから減らすべき」との声は、議員・議会の活動が市民の期待に応えていない、活動の真意が市民に十分に伝わっていないことの表れではないか。議員定数は議員活動の在り方、歳費等を含め市民の声を聴きながら時間をかけて進めるべきと考える。

反対2

身近な市政に対し、市民の声を届け行政をチェックすることが議員の仕事の一つとすれば、どんどん削減することによって、少数意見や多様な意見を抹殺していく恐れがあるため、定数削減に反対。

反対3

議員定数削減が議員として身を切る改革とは思えない。議会経費削減のためであれば、統合庁舎建設時に議会関係の経費削減に努力すべきではなかったか。

議員を削減するのではなく報酬を削減する方法をえらび、議員としてしなければならぬ仕事を見直し、仕事を持ちながら議員活動ができる環境を整えるべきだ。